

項目	確認事項	届出内容	
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学	
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシシャジョウダイガク	
	大学等名2(連携大学等)		
	科目名	インターンシップⅡ	
	学部・研究科等名	生活科学部	
	担当教職員名・役職	西村公雄・学部長	
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	9	
	受入企業等数	6	
	受入企業等名	学校法人大和学園、梅乃宿酒造(株)、江崎グリコ(株)、サントリーグローバルイノベーションセンター(株)、パナソニック(株)エコソリューションズ社、(株)さんけい	
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ.8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい	
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事	
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)		
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各インターンシップ先企業での業務補助、電話対応、来客対応。	
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している.3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している.6.当該インターンシップは、選択科目として実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している	
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3～4年次	
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位	
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習生が登録している他の専門科目または関連科目と融合しながら実習し、指導教授の指導のもとレポートを提出して、合格した場合は単位を取得することができる。	
	要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
		3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている.2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている.4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
		3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
3-2-2.該当する事後学習の内容		1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている	
3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)			
3-2-3.該当するモニタリング		1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	
3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)			
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)		インターンシップについて理解を深めるとともに社会人としてのビジネスマナー(言葉遣い、電話対応、来客対応)を身に付ける。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)		実習体験から学んだことを報告しあうことにより、今後の大学生活における課題や目標を明確にする。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)		教員が実習先を訪問し、疑問や問題点がある場合助言する。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている	
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)		
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加者による報告会、グループディスカッション。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい	
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している	
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)		
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間9～12日間(うちインターンシップ実施期間7～10日間)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)		
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)		
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学キャリアサポートセンターが実施している事前・事後指導に参加。企業での実習については概ね7～10日間連続で行う。	
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している	
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)		

	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	担当教員が各企業と打ち合わせを行う。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.dwc.doshisha.ac.jp/">http://www.dwc.doshisha.ac.jp/</a>
問 い 合 わ せ 先	大学等名	同志社女子大学大学
	担当部署名	生活科学部事務室
	担当者役職名	事務長
	担当者氏名	村松 浩志
	電話番号	075-251-4211
	メールアドレス	seikat-i@dwc.doshisha.ac.jp